

登録団体活動紹介

特定非営利活動法人コミュニティ

ゴミのポイ捨て解消！

法人代表の小地沢将之さんは、大学院生時代の1999年に任意団体「アーバンネット」を立ち上げています。この団体での経験が、特定非営利活動法人コミュニティで法人としてのミッションを遂行するエネルギーの源点になっているとも言えます。

その前年に大学生だった小地沢さんは、都市デザインも学んでおり分煙が推進される社会情勢において、仙台市で社会問題になっていた吸殻を含むゴミのポイ捨て解消を卒業論文の研究課題として行動を始めます。

みんなを巻き込む活動

「アーバンネット」では、ボランティアを募り、参加した市民（若者）と共にゴミ拾いへの参加の場を企画し、参加者への景品提供に協賛した企業とも連携し、行政のまちづくり助成金を活用するなどして発展して行きます。さらに「アーバンネット」の活動が大きく新聞掲載されたことで、全国で話題になるというマスコミをも巻き込んだ最高のまちづくり活動モデルになった事はいうまでもありません。その後、活動期間を2年と決めていた「アーバンネット」の活動を終了し、2001年には、誰でも気軽に参加できるまちづくりの実現を目指す「特定非営利活動法人コミュニティ」を設立します。

震災、そして慰霊碑建立

■慰霊碑建立から
1年間、仙台高専の
学生たちと管理
したボランティア



法人設立10年を迎える年に、東日本大震災の発災がありました。小地沢さん自身、直接被災はしていないという負い目のようなものを感じつつ居住地だった山形県酒田市と、大きく被災した家族の住む仙台市を往復する日々が続きます。やがて、まちづくりをする人間として正しい情報を得ないと何も始まらないと思ひ立ち、カメラを持って出かけま

す。向かった先では、カメラ撮影を躊躇するほどの壊滅的な被害光景があった一方で、コンビニも閉店し食料品が手に入らない時に再開している個人商店の機動力や、イオンモール名取が駐車場を開放し様々な支援活動を受け入れていた現場は、単なる商業空間が別の形で機能した姿であり風化させてはいけなと感じる貴重な体験だったと語ります。

2014年には、震災で甚大な被害を受けた名取市閉上地区に慰霊碑を建立する計画が固められた際、公開型プロポーザルによる選定となった公募要綱策定と提案書の審査にも携わっています。

現在も法人としては、県内外の被災地域支援を含む実践的なまちづくり活動と行政事業の支援を行う高度な技術が必要とされる活動を精力的に継続しています。



■仙台市からの委託
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ
の取り組みだ

まちづくりを楽しむ

ゴミ問題解消活動から21年を経て、今、小地沢さんは、まちづくりは、生活環境を良くしていく作業に過ぎないとしながらも、身近に困りごとを共有する場があることと何かしたいという意欲のある人を繋ぎ、解決の仕掛けを作るプレーヤーの存在が必要と定義します。あの時の「アーバンネット」はその意味でも、すごく大事な仕掛けだったと振り返り今後を見据えます。また、大上段に構えず作業ごとに関わり方の多様性を作り、取り組んだ成果が見えて自分に跳ね返ってくる、そんな“楽しみ方”にシフトしていけるといいという発言に、まちづくりの奥深さが感じられる取材になりました。

連絡先 特定非営利活動法人コミュニティ

☎ 022-341-4680 (FAX 兼)

✉ com@hiyokosky.com